

## 第2回近江八幡市立安土小学校整備地選定委員会(要旨)

1. 開催日時 令和2年9月14日(月) 午後7時30分～9時20分

2. 開催場所 安土町総合支所3階議員控室

3. 出席委員等 ◎寺村 浩 委員長、○深井 千恵 副委員長  
善住 宏治 委員、川原崎 真弓 委員、重野 芳広 委員  
木野 和也 委員、鵜飼 文雄 委員、善住 昌弘 委員

近江八幡市教育長 日岡 昇

### 4. 事務局出席者

教育部長	西川 仁司
教育総務課長	秋山 直人
教育総務課長補佐	藪田 毅
教育総務課主事	岡地 竜男

5. 会議を傍聴した者 10人

### 6. 内容

- (1)開会
- (2)挨拶
- (3)追加資料説明(事務局)
- (4)安土小学校整備地選定に対する各団体の考えについて
- (5)各候補地のメリット・デメリットについて
- (6)その他

### 7. 議事

(1)開会～(2)挨拶 日岡教育長

みなさんこんばんは。遅い時間にも関わらずご参集いただきありがとうございます。第1回、2回と夜間に開催してきましたが、次回以降、現地の小学校見学、移転候補地の見学等も検討したいと考えております。さて、先日の9月議会本会議におきましても安土小学校建

替えに関するご質問をいただき、地域のみなさまが強い関心と意識をお持ちであると改めて感じております。整備候補地の選定にあたり、教育委員会としましては、第一にこども中心に考えていただき、委員会において方向性が出され、最終的に市として決定がなされた際には、色々な課題もございますが、一丸となって協力、ご支援の程よろしく申し上げます。

第1回目の委員会開催後、委員のみなさまにおかれましては、各団体で議論を重ねられるとともに、事務局からも検討資料の説明にお伺いしていると聞いております。本日は各団体の考えについてそれぞれの立場からお話を頂き、議論を深めていきたいと考えております。なお、本委員会はあくまで小学校の整備候補地の選定を目的としておりますので、改めてご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

### (3) 追加資料説明

- ・寺村委員長議事進行のもと、議事に先立ち、委員8名全員が出席し本委員会が成立していることを報告。
- ・事務局より、前回の委員会において意見のあった現在地、移転候補地それぞれの通学距離について、比較資料をもとに報告。今年度の児童数と各地区の集合場所(全38か所)からの直線距離の平均を参考値として算出。現在地ではひとりあたり約838m、移転候補地では約965mとなり、約130m(15%程度)長くなる結果となった。  
(実際は通学路を使用するため、参考値よりは長くなる)

### 【意見等】

- ・それぞれ通学距離が遠くなるのは、現在地では13地区、移転候補地では25地区となる。
- ・移転となった場合、9地区は通学距離が2倍以上となるが、逆に2分の1以下になる地区はない。
- ・移転となった場合、通学距離が伸びる130mをどうとらえるかは、各委員の考えにもよる。
- ・130mは大きな影響はないと考える。
- ・現在の小学校は安土地域の中心に位置し、児童数も多いことから、中心地から外れることにより、通学距離に関しては長くなると言えるのではないかと。

### (4) 安土小学校整備地選定に対する各団体の考えについて

#### 【安土学区まちづくり協議会】

- ・まち協(まちづくり協議会)定例会において、第1回目の委員会の内容を受け協議を実施。
- ・様々な意見が出たが、まち協の立場としては過去に意見を集約し、移転候補地におけるコミセン(コミュニティセンター)一体整備を要望書として提出しており、その方向で進めてほしいという意見が大半であった。
- ・今月末の月例会において事務局から検討資料の説明を受ける予定をしており、その内容を含め議論を深めていきたいと考えており、現時点においては具体的な方向性を示せる段階ではないのが現状である。

### 【安土幼稚園】

- ・第1回目の委員会を受け、小学校と合同で保護者向けの説明会を開催(9月2日)。
- ・当日不参加の保護者全員に対して、検討資料と説明会における質疑回答の内容を配布し周知と正確な情報発信に努めた。
- ・あくまで現時点の意見として、資料の配布と併せてアンケートを実施。現地案が37%、移転案が63%と、移転建て替えを希望する方が多いという結果であったが、検討資料に記載されている不安材料を心配する声があり、それらを解消していただいた中で、安心して子どもたちを小学校に通わせられるのではないかという意見が多くあった。
- ・移転となった場合、浸水想定区域内であること、通学路における交通安全に関する質問が多く寄せられた。

### 【安土幼稚園 PTA】

- ・副委員長からの報告の通り、アンケート結果だけをみると移転案が多かった。しかし、どちらの案もデメリットがある中で、決めかねるという意見も多くあった。
- ・広い用地が確保でき、こどもたちの負担となる仮設校舎が不要などの意見から移転を支持するが、移転候補地は浸水想定区域内という部分が一番の不安点であるという声が多く寄せられた(学校用地だけ盛土をしたとしても、周辺道路が冠水すると孤立してしまい、帰宅困難になるのではないかなど)。
- ・移転候補地については、まだ案の状態であるが、浸水に関する不安点を解消していただければ移転を支持する方が増えていくのではないかなど。

### 【安土小学校 PTA】

- ・安土幼稚園と合同で保護者説明会を開催(9月2日)。開始時間が午後5時30分となり、保護者が参加しづらい時間帯であったことから12名の参加であった。当日不参加の保護者全員に対して、翌日に検討資料と説明会における質疑回答の内容を配布しアンケートを実施。
- ・PTA 会員457名中、回答数が305名(回答率66.7%)であり、うち現地案が116名(38%)、移転案が188名(61.7%)という結果であった。
- ・回答率が予想より低く、どちらがいいか現時点では判断しにくいという方が多かったと思われる。
- ・現地:移転≒4:6と拮抗し、圧倒的にどちらかを支持するという状況ではなかった。
- ・推察ではあるが、どちらの案もメリット・デメリットがあり、その課題をどうするのか対策案が不十分で明確でないことが大きいのではないかなど。現地案では敷地面積が限られることから、運動場が狭く、駐車場不足による渋滞、交通安全対策についてどうするのか。移転案では浸水想定区域内であり、盛土、調整池等の対策が考えられるが、周辺地域、道路の浸水対策はどうするのか。移転候補地を支持するが、その課題対策がまだ見えてこない、交通量の多い県道を跨ぐため、歩道橋等の交通安全対策がなされるかなど

の意見が寄せられた。

- ・両案の課題とその対策をもう少しはっきり示せると判断しやすいのではないかと。

#### 【安土小学校学校評議員】

- ・各候補地にメリット・デメリットがあり、様々な意見がある中で、どちらか決めかねるという声があり、評議員としては、安土学区全戸による投票で決めていただきたいと提案する形でまとまった。
- ・メリット・デメリットがはっきり分かるよう明示したうえで、こどもが学校に通っている、通っていない家庭に関わらず、地域全体における内容であることから、全戸投票で決めた方が良いのではないかと。

#### 【安土学区自治連合会(下豊浦区)】

- ・総代会において議論を行い、まち協さんと同様、過去に意見を集約し要望書として提出された移転候補地におけるコミセン一体整備を尊重してほしいという意見が多かった。
- ・現地では仮設校舎の期間中はこどもたちに負担をかけることになり、こどもたちのことを第一に考えると移転整備の方が良いのではないかと。
- ・仮に移転となった場合の交通安全に関しては、適正な対策を実施していただけると考えている。
- ・桐原小学校を見学し、広い校舎、教室、運動場をみると、現地では同規模の整備を実現するのは難しいのではないかとこの意見があった。

#### 【安土学区自治連合会】

- ・常楽寺区長として、常楽寺の全8町会長に参加いただき説明会を開催。最も大きな意見として、このような重要な内容を選定委員会の8名だけで決定してしまうのかという声があった。
- ・安土学区自治連合会長として、8月22日に桐原小学校にて各自治会長に対し説明会を開催(全32自治会のうち29自治会参加)。
- ・自治連合会としては、学校評議員さんと同様、学区民による投票によって決定したいと考えている。具体的な案としては、10月までに両案の比較表を全戸配布、11月末に投票(1世帯につき1票)し、12月の選定委員会において決定する。
- ・学区民投票の実施が難しい場合、本日委員による無記名投票による採決を行い、その内容を参考に教育委員会が責任を持って決定し、各地域への説明会を開催する形で進めてはどうか。

#### 【安土小学校】

- ・こどもたちのより良い教育環境を考え、教職員で意見交換を行った。
- ・現在地では駐車場が狭く、保護者の送迎、通学の安全性を鑑みると現在地では限界があるのではないかと考えている。

- ・様々な学習を提供するためには、余裕をもって活動できる教育環境が望ましいと考えており、自由度の高い設計ができる移転候補地の方がより効果的ではないか。
- ・周辺住民への配慮、一時的な期間ではあるが仮設校舎による児童への負担を鑑みると移転を推薦する声が多かった。
- ・新しく整備された学校は教室、廊下とも幅広く、多目的スペースを設けるなど余裕を持ったものになっており、現地建替えでは、現在の南校舎棟の場所に4階建ての校舎が建設される予定となっているが、それらが十分に確保できるかどうか。
- ・移転候補地は浸水想定区域内であり、学校用地はもちろん周辺道路の浸水対策が必要ではないか。
- ・仮に移転となった場合、県道を跨ぐことに関して、通学路においては JR 高架下を通る方法や新たに道路を整備する方法も考えられる。また、乗用車においては跨線橋近くに交差点と信号を設けることができるのか、また安全面での課題もあるのではないか。
- ・現時点では移転案を希望する教職員が多いが、不安材料の解決方法、対策について明確にできると判断しやすくなるのではないか。

#### 【意見等】

(委員) 検討資料に挙げられるデメリットに関して、改善できる余地があるのか。

(事務局) 検討資料の評価のうち、委員会の中でデメリットとして挙げられているものについて、物理的に改善できるもの、できないものもある。

(委員) 検討材料が揃っていない今の段階で、学区全戸投票により決定するのは難しいのではないか。

(委員) 学区民が決められないことは、選定委員会でも決められないのではないか。両案ともメリット・デメリットがある中で、いずれの方法にしても、どこかで割り切って決める必要があり、それを選定委員会の8名で割り切るのか、投票により全学区民で割り切るのかの違いになるのではないか。

(委員) 駐車台数に関しては、比較検討の材料にならないのではないか。安全面だけ考えれば学校敷地内には駐車場を設けず、学校外に駐車場用地を整備する方法も考えられる。

(委員) 現状多くの保護者が送迎として車を利用しており、周辺における交通渋滞の状況を含めると、駐車場も判断材料となるのではないか。

(委員) 実現性は別にして、例えばコミセンを移転、跡地を駐車場として整備し、原則学校敷

地内に入れないようにすれば、児童にとっては最も安全ではないか。もちろん、グラウンドや校舎の広さは重要な要素のひとつではある。

(委員) 小学校は子どもたちのためであることは大前提として、安土学区のひとつの拠点として、市内の他学区と同様、広い敷地での学校、諸施設の整備を進めてほしいと考えている。住民投票という意見もあるが、各団体を代表しているという自覚を持って、委員会としてメリット・デメリットに関して議論を深めていくことが必要ではないか。

(委員長) 様々な意見が出ており、重要な判断材料となる各候補地のメリット・デメリット、課題に対する対応策が整理しきれておらず、各委員、団体においても判断しかねるという意見がある中、今日の段階でいずれか決めることは難しいのではないか。今までの情報整理を含めて、各候補地における比較評価を改めて事務局より説明をいただきながら、議論を深めていきたいと考えますがいかかでしょうか。

#### (5) 各候補地のメリット・デメリットについて(事務局)

各候補地における比較検討について、それぞれの項目に関して何を重視するかによって考え方も変わるため、メリット・デメリットという表現は行わず、建替事業の評価として整理を行い、立地条件、計画(校舎規模、グラウンド規模等)、近隣対応、児童の負担、工期、概算事業費について評価を説明。

#### 【意見等】

(委員) 移転建て替えの場合、浸水想定区域内に関して、質疑では必要な対策は講じられるとあったが、事業評価における表中には「浸水想定区域内」のみ記載されており、不安を煽るような表現に感じるため、対策に関する記述を追加したうえで比較した方がよいのではないか。

(事務局) 浸水に関する項目以外にも含めて、デメリットとされるものにどう対応していくのか、できないものを含めて整理し、分かりやすく示せるよう資料の作成を行う。

(委員) 移転の場合は盛土による嵩上げを見込んでいるのか。

(事務局) 盛土による嵩上げ、地盤改良等は造成費として見込んでいる。

(委員) 学校は必ず災害避難場所とする必要があるのか。善し悪しは別にして避難所に指定しなければ浸水に関する項目がデメリットにならない可能性もあるのでは。例えば浸水が想定される豪雨であれば休校にするなどの対応も考えられる。

(事務局) 災害避難所として指定しない場合、新たにどこに設けるのか検討が必要になる。

(委員)いずれにしてもメリット・デメリットがある中で、選定委員8名で決めた内容に責任を持てるのか。子どもたちに早く学校を整備するために早急に結論を出し、どちらに決まったとしても協力は惜しまないことはどの自治会長も同じ思いであるが、地域の方が様々な意見を持たれている中で、自治会としてひとつの結論にまとめるのは困難であり、責任が重いという声もある。先ほど申した通り、投票という形で学区民ひとりひとりの考えを頂いたうえで、教育委員会が責任を持って決めていただきたい。決定された整備地における課題をどうクリアしていくのか考えることが行政の責任ではないか。

(事務局)委員会において出された選定結果の過程には中にも様々な意見、議論があり、それらを踏まえ最終的に市が責任を持って決定する。委員会の8名で決めるのではなく、委員のみなさまは各団体を代表されており、各団体において論議を交わし、様々な意見を吸い上げ、この場で議論をいただいた中で出された選定結果を一定の住民合意として捉えたいと考えている。住民投票の必要性についてもひとつの意見として、現時点で実施の有無を決めるものではないと考えている。

(委員長)各団体により状況は異なるが、本日が最終決定とすることに同意できないという意見があり、次回以降継続するという形でよろしいか。

(委員)次回以降継続となれば、学区民投票という意見はどう扱うのか。

(委員)次回はどのような内容を話し合うのか。

(委員長)検討資料における課題等を整理した内容をもとに議論し、各団体の意見を集約し、委員会の中でさらに議論し、最終的な方向性を見出したい。

(委員)委員会としての方向性の決定は12月までか。

(事務局)12月いっぱいまでと考えている。

(委員)比較検討資料について、工期の年数に関する内容はないのか。

(事務局)許認可手続きの有無という形で影響を及ぼすとしている。

(委員)早く建てるということが重要な要素であれば、具体的な年数を含めてはどうか。

(委員)通学距離に関して、漠然と長くなるのではなく具体的な数値を記載してはどうか。また、概算事業費に関して造成費等の詳細の内訳は出せるか。

(事務局) 細分化すると用地取得費があり、具体的な数値は出しづらいのが現状である。

(委員) 整備に関して国からの支援はあるのか。今まで整備してきた学校はコミセンとの一体整備における補助を受けてきたと聞いている。

(事務局) 学校単体でも交付金等の補助があり、交付金の活用を予定している。

(委員) 繰り返しになるが次回はどのような内容を話し合うのか。

(委員長) 各団体の状況にもよるが、例えば小学校、幼稚園保護者におかれてはデメリットとされる対応策を含め判断材料としてはまだ不足しており、引き続き検討したいという声があり、それぞれの評価についてさらに深く議論していきたいと考えている。

(委員) まち協については、本日の委員会、また今月の月例会における説明会の内容を受け、議論を深め次回委員会で意見として反映していきたいと考えている。

(委員) 保護者アンケート等で、それぞれ具体的な数値が出ているが、それらはどう扱うのか。

(委員) 検討中であるが、委員会において議論された内容をフィードバックする中で再度アンケートを実施し、その結果割合が変わる可能性もある。保護者から出た不安点については解消できるよう説明していきたい。

(委員) アンケートを繰り返したとしても、どこかで区切りを付けて結論を出す必要があると考える。

(委員) 今回のアンケート結果を自治連合会に提供してもよいか。

(委員) 現実の数字として、ひとつの判断材料として活用すべきである。

(委員) 今の段階で割合が拮抗しており、今回のアンケート結果を最終的な意見とすることは難しいと考えている。

(委員) 必要であれば自治連合会に本日の委員会の内容をフィードバックし、アンケートを行う。

(日岡教育長) 委員のみなさまは各団体の代表として、ひとつの方向性を出すことの難しさ

は十分理解しております。この委員会で各団体から様々な意見を出し合っただき、議論を行い、知恵を出し合い、委員会として方向性を見出すことを目的としています。委員による無記名投票や住民投票もひとつの考え方ではありますが、委員会で決定された方向性をもとに市が責任を持って決定し、議会の承認を経たうえで事業を進めていくという認識のもと、子どもたちのために議論を重ねていただきたいと思います。

(委員長)委員会として、各委員が団体を代表した最終的な意見として持ってきていただくには、現段階では判断材料が不足していると考えている。より判断しやすくするために、不安点とその解消方法について次回委員会までに具体的な内容を示す必要があると考えるが検討可能か。

(事務局)特に多く不安として挙げられている浸水想定区域内での対策に関しては詳細な内容を確認する。その他不安点があれば、次回委員会までに資料として反映させたいと考えるが何かあるか。

(委員)特別教室に関して、桐原小学校と同じような特別教室、桐原っ子ホール(多目的ホール)は確保できるか。

(事務局)建物に関しては現地、移転いずれにしても同程度の規模を想定している。ただし、桐原っ子ホールは地域と学校が共同で使用するホールであり、コミュニティエリア一体整備の一環としており、学校単体の場合であれば整備は難しい。

(委員)通学路に関して、通学路の安全対策における国の整備基準等があれば、資料に記載してほしい。

(委員長)学校現場の意見として、安土小学校は岡山小学校と比較して教室、廊下とも狭くなっている。検討資料では岡山小学校と同程度と想定されているが、特に現地建替えの場合、教室の面積、廊下の幅を岡山小学校と同じ規模で整備できるのか。可能であればもう少し具体的な教室の面積、廊下や階段の幅などを示してほしい。

(委員)現地建て替えの場合、仮設校舎建設により具体的にどれだけグラウンドが狭くなるのか。

(事務局)現在の6,058㎡から、約4,200㎡に減少する。

(委員)現地建替えの場合、プールの横に買収想定区域約750㎡とあるが、あくまで想定段階であるか。

(事務局)あくまで想定として、整備地が決まった段階で検討するものであり、必ず確保できるものではない。

(委員)本日の議事に関して、どの範囲まで各団体にフィードバックする必要があるか。

(事務局)本委員会は公開としており、本日議論された各委員からの意見等は議事録として市HP等で掲載するため、特定の部分だけ伝えるということはない。

(委員長)次回は、本日の疑義について事務局から回答できるものについて報告をいただき、各団体においても意向の確認をしていただきながら、議論を進めていきたいと考えておりますのでご協力よろしく申し上げます。

#### (6)その他

次回委員会の開催は10月を予定